



衣川台住民の皆さま、いつもなまず通信をご覧いただきありがとうございます。昨年 11 月に予定されていた第 2 回の防災訓練は残念ながら悪天候のため中止になりました。

今回は、衣川台周辺のローカルな地域に焦点をあてて、地震に関する情報をまとめてみました⁽¹⁻²⁾。ご家族で再確認いただくとともに、地域の安全についてももう一度考えていただければと考え、お届けします。

特集:衣川台の地震リスクを知る

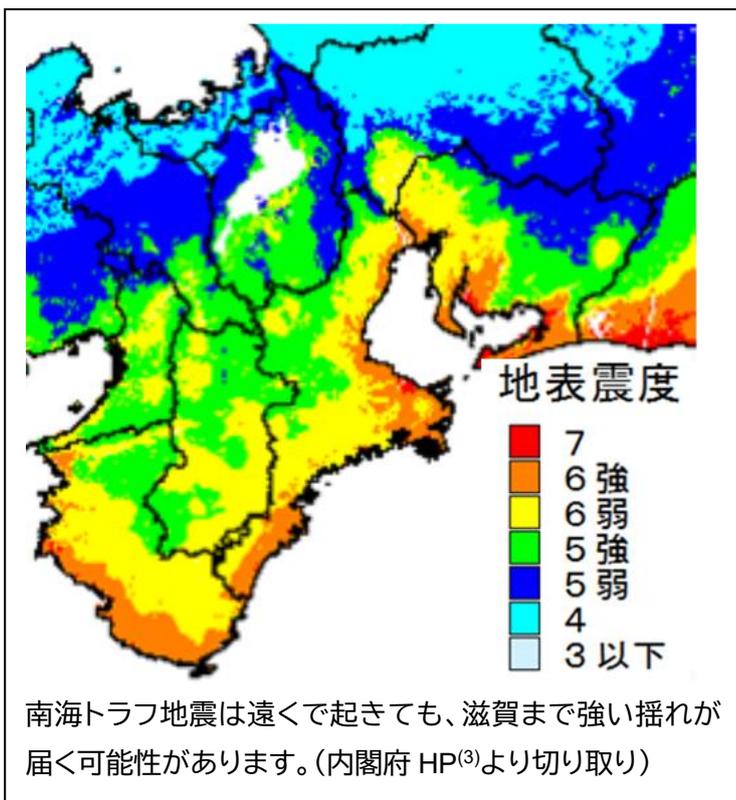
衣川台は、遠い場所で起きる巨大地震の影響を受ける可能性があり、また、めったにないけれど急に起きる地震にも備える必要があります。

右図は、**南海トラフ巨大地震**が発生した場合の滋賀県周辺地域の地表震度を表したものです。衣川台でも震度 5 強が予測されています。

南海トラフ巨大地震は、ここ数十年での発生が強く懸念されており、かついつ発生してもおかしくない地震です。発生を抑えることはできないので、まずは

- 地震が起きたときの行動をはっきりしましょう。
- 日頃から備えておきましょう。

これらについては、後半で少し考えたいと思います。



衣川台の地震リスク(この地域の特徴)

衣川台のすぐ西側には、**琵琶湖西岸断層帯**があります。発生確率は高くなくても、動いた時の揺れは強く局所的に出ます。しばしば、琵琶湖西岸断層帯南部が地震を起こす確率が低いことが記述されていますが、右のコラムが示す通り、地震が起きないことを保証するものではありません。

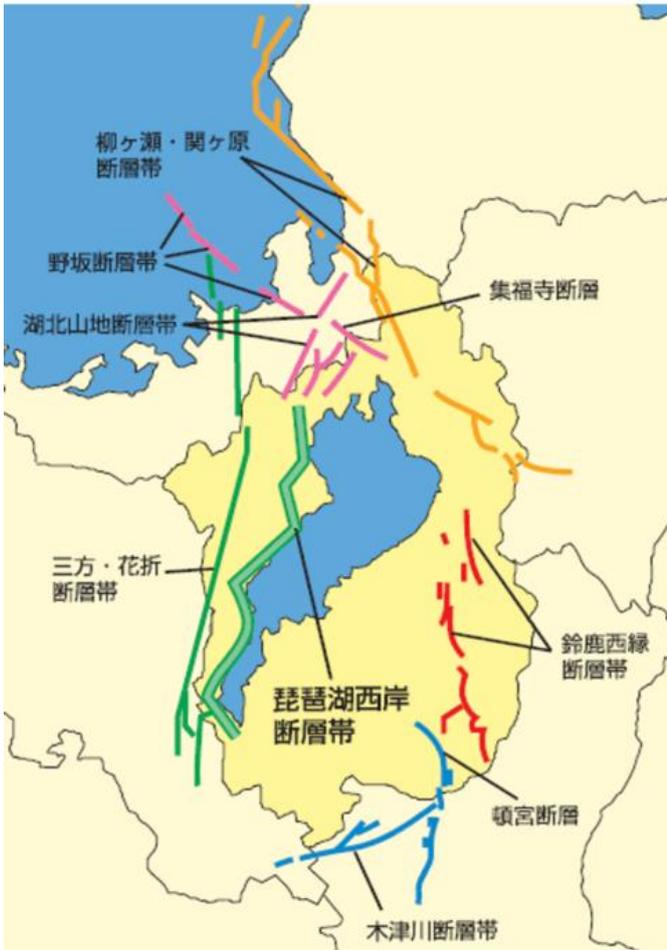
後で、南海トラフ巨大地震のような“広い地震”と、琵琶湖西岸断層帯起因の“近い地震”の違いについてまとめたいと思います。

「確率が低い≠安心」

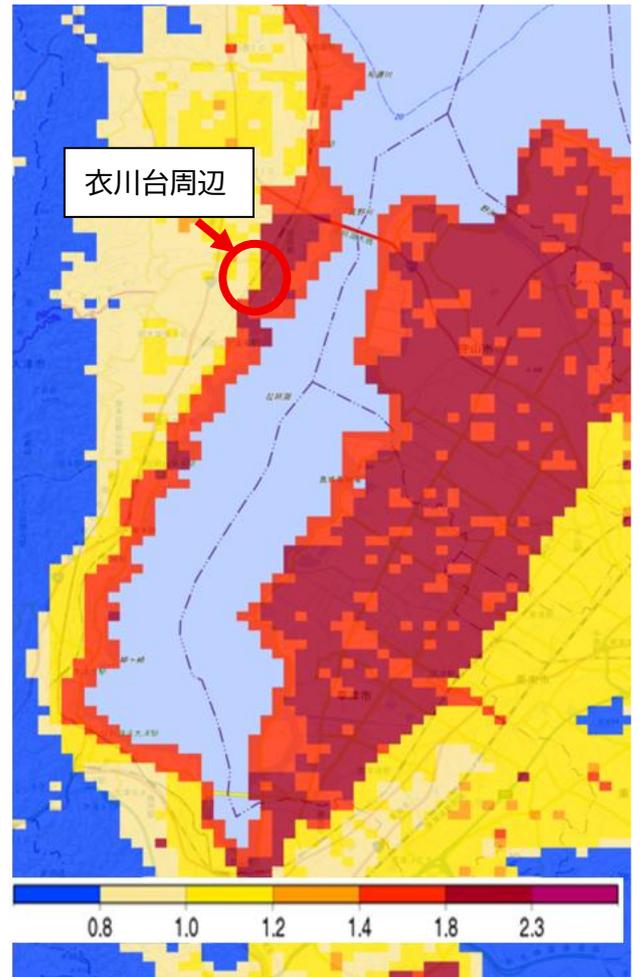
直近で大きな地震が起きる確率が低い地域でも、長い時間の地球の歴史では大きな地震が起きることがあります。

例えば、能登半島では過去の記録が少ない地域でありながら、2007 年や 2024 年に大きな地震が起きました。それらは地震評価で確率が高いとされていた場所ではありませんでしたが、実際には発生しました。

これは「確率が低い」という評価が、「起きない」ことを保証するものではないことを示しています。



滋賀県とその周辺の主な断層帯 (Be-Do コラム⁽¹⁾から引用・加工)



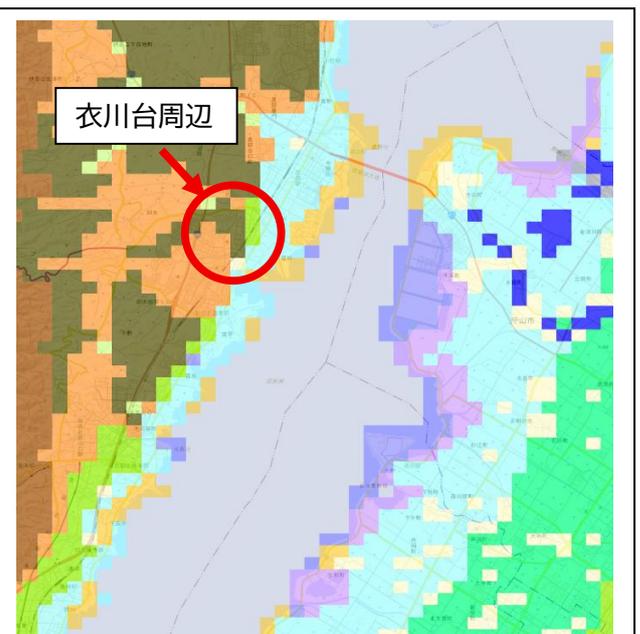
表層地盤増幅率 (J-SHIS Map⁽⁴⁾をもとに作成)

上左の図を見てください。衣川台の近くに琵琶湖西岸断層帯があります。これにより近い地震が発生すると、震度6強～7クラスの非常に強い揺れが局地的に起こると想定されています(モデル計算によるものです)。

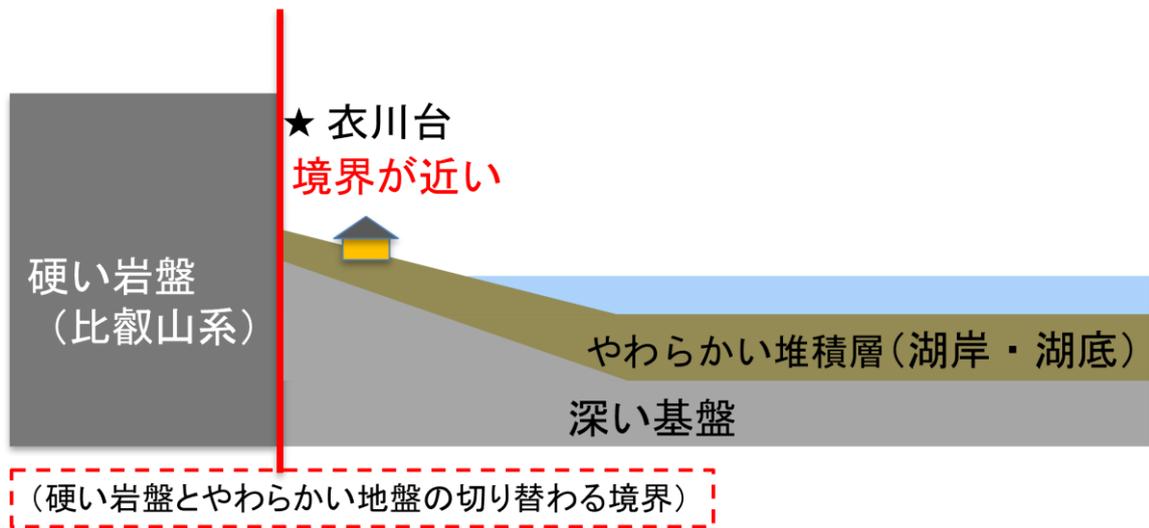
上右の図もみてください。やわらかい地面では地震の揺れが大きくなります。その大きくなりやすさを表したのが表層地盤増幅率です。一般に1.5～2.0以上は揺れやすいと言われます。衣川台はちょうど境界上に位置します。このデータの境界は連続的な変化を示しているため、衣川台は大きく揺れる可能性があると考えておいた方がよいでしょう。

右図は、衣川台周辺の地形を示したものです。黄土色は丘陵地を、黄緑は扇状地を、水色は湖岸低地を表しています。衣川台は丘陵地から扇状地と表現されています。

実は、湖西側は山の硬い土と湖のやわらかい土が急に切り替わる場所です(次ページの上図)。こうした切り替わりがある所は、揺れが大きくなる性質があります。



衣川台周辺の表層地盤(J-SHIS Map⁽⁴⁾をもとに作成)



衣川台の置かれている地層の概略断面図

地震が起きた時の行動

自主防災部の役割は主として“共助”に関するものですが、今回は“自助”に関するものを挙げたいと考えます。

まず心がけること(揺れている間)

- ① 身を守る
 - ・ 机の下に入る
 - ・ 頭を守る
- ② 動かない
 - ・ 外に飛び出さない

揺れがおさまったら

- 出口を確保する
 - ・ ドアを少し開けておく
- 火の元を確認する
 - ・ コンロ・ストーブ・暖房器具
- 危険があればブレーカーを落とす
 - ・ 水漏れ、火花、焦げ臭さがある場合

※ 強い地震ではガスメーターが自動で止まる場合があります。



一番大事なのは、「揺れている間は身を守る姿勢をとること」です。

最後に重要なこと — 今日からできる備え —

心構え

起きる頻度は低くても、起きれば命に関わるのが地震です。
数字だけで安心せず、日頃からの備えが大きな違いを生みます。

南海トラフ巨大地震(広い地震)と琵琶湖西岸断層帯起因の地震(近い地震)に対しての行動について、考えてみましょう。

どちらの地震でも、まず身を守る行動は同じです。

ただ、揺れた後の注意点や行動には少し違いがあります。

広い地震は、「長く・広く揺れる」地震です。

注意点

- ・ 余震が何度も来る
- ・ 交通・物流が長期間止まる
- ・ 広域停電・断水

行動の重点

- ・ 早めの生活確保(水・食料・トイレ)
- ・ 家族・知人の安否確認
- ・ SNS などでのデマ情報に注意
- 「長期戦」への備えと心構えが重要

近い地震は、「突然・強く・局所的に揺れる」地震です。

注意点

- ・ 建物倒壊・道路寸断が集中
- ・ 土砂災害・斜面崩れ
- ・ ガス漏れ・火災

行動の重点

- ・ 建物の安全確認
- ・ 斜面・崖から離れる
- ・ 火の始末・異常があればガス遮断
- 「二次災害回避」が特に重要

今日からできる3つの備え

- ① 家具の固定 (特に寝室)
- ② 懐中電灯・ラジオ・避難用具の準備
- ③ 家族で避難方法・連絡方法を話す

非常持ち出し袋については、なまず通信 2024 年 2 月号に掲載しました。衣川台自治会のホームページにバックナンバーも保存されているので、参考にしてください。

参考文献

- 1) Be-Do コラム:滋賀県の地形・災害と地震 https://be-do-inc.co.jp/shiga_column/ (2026 年 1 月閲覧)
- 2) 「けやき教育塾」での彦根地方気象台発表資料 (令和 7 年 1 月 15 日)
- 3) 内閣府 防災情報のページ (<https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/>) (2026 年 1 月閲覧)
- 4) J-SHIS Map:表層地盤増幅率および微地形区分 (<https://www.j-shis.bosai.go.jp/map/>) (2026 年 1 月閲覧)

以上